

# 圧力気球開発へ試験

JAXA

## 大樹で第2次3基目 膨張時の形状など調査



【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）は11日前、大樹航空宇宙実験場で大気球の放球実験を行った。今年度第2次実験の3基目。100日間以上の長時間飛行を可能にする次世代気球「圧力気球（スーパープレッシャー気球）」開発の一環として、中型の圧力気球の飛行性能を試験した。

既に実用化されている「ゼロプレッシャー気球」は、ヘリウムガスを排気したり、バラスト（重り）を捨てることで平衡を維持するが、飛行時間は5日から10日ほどに限られる。

これに対し、圧力気球は

飛行性能の試験のため、打ち上げられた圧力気球（11日午前6時20分ごろ）

三陸大気球観測所（岩手県大船渡市）でも繰り返し実験されてきた。

この日は午前6時19分、最大膨張時で体積6万立方メートル、直径55・7メートル、重量471キログラムの気球を打ち上げ、膨張時の形状や浮遊中の耐圧性能を調べた。

しかし、同8時33分、気球の一部のフィルムが展開せず

に折り重なったため、気球が破裂。釧路管内浜中町南方約40キロの海上に降下した。もともと海上での降下を想定しており、安全面に問題はなかった。

た。JAXAは「今後、原因などを検討していきたい」としている。今年度の大気球放球実験は今回で終了した。（佐藤圭史）

## 今年度の実験終了

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）は11日、今年度の大気球放球実験を終了した。予定していた8基のうち6基を打ち上げ、科学観測などを通じてさまざまなデータを収集した。

気流などの条件から、今年度は第1次（5〜6月）と第2次（8〜9月）の2回に分けて実験した。第1次では予定通り、無重力システムの動作確認などで3基を放球。第2次では高エネルギー電子・陽電子の観測などで3基を放ったが、残りの2基は天候や気流に恵まれず、来年度以降に持ち越した。

第2次の2基目では、気球が上空での実験終了後、正常に破断されずに大樹市内の山中に落下。関係者は対応に追われた。

今年度の実験について、JAXA大気球実験室の吉田哲也室長は「今年初めて科学的観測ができ、ようやく本格化した。広尾の件については安全対策をしっかり講じていきたい」と話している。

JAXAは昨年度から、大気球の放球実験を、それまでの三陸大気球観測所から大樹航空宇宙実験場に移している。

（佐藤圭史）